

## 平成 30 年度地域課題研究助成の報告

## 1. 研究課題名

産後の母親の精神状態とその背景の実態調査～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～

## 2. 研究代表者及び所属

松枝杏奈 上越総合病院

## 3. 研究メンバー

松枝杏奈<sup>1)</sup> 中村久美子<sup>1)</sup> 相羽綾子<sup>1)</sup> 横尾由美子<sup>1)</sup> 渡邊史佳<sup>1)</sup> 廣瀬洋美<sup>1)</sup> 丸田直美<sup>1)</sup>  
中島通子<sup>2)</sup> 西田絵美<sup>2)</sup> 永吉雅人<sup>2)</sup>

1) 上越総合病院 2) 新潟県立看護大学

## 4. 学内責任者

新潟県立看護大学 中島通子

## 5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額 (円)	0	0	12,300	82,354	94,654

## 6. 研究の概要

本研究は産後 5 日目、産後 2 週間目、1 ヶ月健診時の褥婦にエジンバラ産後うつ病質問票（以下 EPDS）を実施して産後の精神状態とその背景を把握し、A 病棟での EPDS の導入及び支援方法の検討を目的とした。調査方法は郵送法及び留め置き法による自記式質問紙調査である。分析方法は EPDS 得点及び基礎情報の統計処理と t 検定 ( $p < 0.05$ ) を用いた。倫理的配慮は益・不利益の有無、情報は研究以外に使用しない、学会誌及び学会等に発表する際は個人特定できないよう、符号化し連結不可能な処理をすることを説明し同意を得た。また、病院の倫理委員会の承認を得た。結果、対象者は産後 5 日目 127 名 (有効回答率 96.9%)、産後 2 週間目 101 名 (79.5%)、1 ヶ月健診時 125 名 (98.4%) となった。全体の EPDS の平均点は産後 5 日目 5.54 点、産後 2 週間目 5.49 点、1 ヶ月健診時 3.89 点と産後 5 日目が高かった。産後うつ病のハイリスク群である EPDS9 点以上の褥婦の割合は産後 5 日目 23.6%、産後 2 週間目 26.7%、1 ヶ月健診時 16.8%と産後 2 週間目が最も多かった。EPDS 得点と関連する背景因子として産後 5 日目は分娩回数 ( $p = 0.0004$ )、経済的不安 ( $p = 0.0075$ )、栄養方法 ( $p = 0.0062$ )、妊娠時の気持ち ( $p = 0.0329$ ) であった。産後 2 週間目は分娩回数 ( $p = 0.0043$ )、経済的不安 ( $p = 0.0162$ )、精神科受診歴 ( $p = 0.0447$ ) であった。産後 1 ヶ月時は分娩回数 ( $p = 0.0059$ )、経済的不安 ( $p = 0.0164$ ) であった。今後は妊娠初期からの EPDS 導入とそれを活用した継続支援、地域との情報共有・連携、適切な支援体制構築が課題となった。

## 7. 今後の学会発表の予定

日本母性衛生学会